

芦屋町職員の給与・定員管理の状況を公表します

令和5年度決算統計調査と令和6年給与実態調査・定員管理調査（4月1日）の資料に基づき、芦屋町職員の給与と定員管理などの状況を公表します。詳しくは町のホームページで4月末までに公開する予定です。
▷問い合わせ 人事係（☎223-3574）

1. 総括（普通会計決算）

①人件費の状況（令和5年度普通会計決算）

住民基本台帳人口 (令和6年1月1日)	歳出額 (A)	人件費 (B)	人件費率 (B/A)	前年度の 人件費率
1万2942人	101億886万円	13億2539万円	13.1%	13.8%

※普通会計とは、一般会計と給食センター特別会計のことです。
※人件費には、特別職の給与と報酬、一般職の給料や諸手当のほか
に共済組合負担金などが含まれます。

②職員給与費の状況（令和5年度普通会計決算）

職員数 (A)	給与費				1人当たり 給与費 (B/A)
	給料	職員手当	期末勤勉手当	計(B)	
153人	5億3659万円	9237万円	1億9498万円	8億2394万円	539万円

2. 平均給与月額状況（令和5年4月1日現在）

区分	一般行政職			
	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額	平均給与月額 (国ベース)
芦屋町	40.7歳	299,694円	357,095円	324,626円
国	42.4歳	322,487円	—	404,015円
区分	労務職			
	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額	平均給与月額 (国ベース)
芦屋町	36.3歳	229,600円	260,867円	237,267円
国	51.2歳	286,942円	—	329,178円

※平均給与月額とは、給料月額（基本給）と扶養手当、地域手当、住居手当、時間外勤務手当などのすべての諸手当の額を平均したもので、平均給与月額（国ベース）とは、国家公務員と同基準（時間外勤務手当などは含まない）で額を平均したものです。

3. 初任給の状況（令和6年4月1日現在）

区分	一般行政職		技能労務職
	大学卒	高校卒	高校卒
芦屋町	196,200円	170,900円	164,000円
国	196,200円	166,600円	—

4. 手当の状況

①期末手当・勤勉手当（令和5年度支給割合）

支給割合		役職加算
期末手当	勤勉手当	
2.45月	2.05月	5～15%

②退職手当（令和6年4月1日現在）

区分	勤続20年	勤続25年	勤続35年	最高 限度額	1人当たりの 平均支給額
自己都合	19.67月分	28.04月分	39.76月分	47.71月分	175万円
勸奨・定年	24.59月分	33.27月分	47.71月分	47.71月分	—

※1人当たりの平均支給額は、令和5年度に退職した職員に支給された平均額です。

③その他の手当（令和6年4月1日現在）

手当名	内容と支給単価	1人当たりの 平均支給年額 (令和5年度決算)
地域手当	(給料+扶養手当+管理職手当) ×支給割合(芦屋町:0%、福岡市:10%)	323,820円
特殊勤務手当	徴税特殊勤務手当、 ボートレース事業特殊勤務手当など	261,336円
扶養手当	子 10,000円 子以外 6,500円	236,232円
住居手当	借家 上限28,000円	256,140円
通勤手当	公共交通機関 上限55,000円 自家用車など(2km以上) 2,000円～24,400円	61,422円
管理職手当	49,600円～72,700円	791,811円
時間外手当	正規の勤務時間外の勤務	318,843円

5. 特別職の報酬などの状況（令和6年4月1日現在）

区分	給料	退職手当	期末手当
町長	744,000円	給料月額× 在職年数×450/100	6月期1.5月 12月期1.5月 (特別職加算20%)
副町長	621,000円	給料月額× 在職年数×300/100	
教育長	581,000円	給料月額× 在職年数×240/100	
事業管理者	562,000円	給料月額× 在職年数×240/100	

区分	報酬	退職手当	期末手当
議長	345,000円	該当なし	6月期1.425月 12月期1.425月 (特別職加算20%)
副議長	318,000円		
議員	298,000円		

6. 職員数の状況（各年4月1日現在）

部門		職員数(人)		対前年 増減数 (人)
		令和5年	令和6年	
普通会計部門	議会	3	3	—
	総務・企画	51	57	6
	税務	13	11	△2
	民生	25	28	3
	衛生	12	11	△1
	農林水産	5	5	—
	商工	5	5	—
	土木	14	16	2
	計	128	136	8
	教育部門	19	17	△2
公営企業等部門	小計	147	153	6
	下水道	4	4	—
	ボートレース	21	22	1
	その他	5	6	1
	小計	30	32	2
合計		177	185	8

※職員数は一般職に属する職員数で、退職者、育児休業者、派遣職員を含みます。

芦屋歴史紀行

その三百四十六

移動美術館展 注目作品紹介

2月22日(土)～3月16日(日)、芦屋釜の里、芦屋歴史の里、ギャラリーあしやでは令和6年度福岡県立美術館所蔵品巡回展「移動美術館展」芸術の海へ飛び出そう！3館をめぐる「芦屋アートの旅」を開催中です。今回は、本展覧会の注目作品の中から福岡県立美術館所蔵作品を紹介します。

●上野焼「三彩茶碗」18世紀(芦屋釜の里展示)

上野焼は、小倉藩の御用窯で、福岡県を代表する焼き物の一つです。慶長7(1602)年ごろに、朝鮮より渡来した陶工尊楷によって釜ノ口窯(福智町上野)で始められ、現代でも茶陶の窯として広く知られています。江戸時代初期から明治時代まで操業した皿山本窯跡(福智町上野)か



上野焼「三彩茶碗」18世紀

らは、多種多様な技法や釉薬の陶器が出土します。今回展示する「三彩茶碗」は、緑釉と黄釉の鮮やかさに目を惹かれる一点です。

●伊藤彰耳「春ふたたび」2011年(芦屋歴史の里展示)

伊藤彰耳(1938年生まれ)は、大牟田市出身の芸術家です。昭和36(1961)年に多摩美術大学日本画科を卒業後、昭和47(1972)年まで教職の傍ら制作を続けました。昭和41(1966)年には再興第51回院展に初入選を果たしています。その後も受賞を重ね、現在も精神的に活動を行っています。今回展示する「春ふたたび」は、北鎌倉の明月院の境内の八重咲きの桜を描いた作品です。

●中村研一「サイゴンの夢」1947年(ギャラリーあしや展示)

中村研一(1895～1996

7)は宗像市出身の洋画家です。大正3(1914)年に県立中学修猷館を卒業後、上京。本郷洋画研究所を経て東京美術学校で岡田三郎助に師事します。研一は、前回紹介した田中繁吉の美術学校の1年先輩にあたり、同時期にフランスに留学しています。今回展示する「サイゴンの夢」は、研一の特徴である鮮やかな色彩と写実的な画風が表れた作品です。



中村研一「サイゴンの夢」1947年

このほかにも、福岡県立美術館のコレクションから選び抜いた美術作品を多数、展示します。3館をめぐる芦屋アートの旅を楽しんでください。

(芦屋歴史の里)

編集後記

▼二十歳になられた皆さん、おめでとうございます。爪先まできらきらと輝く皆さんの晴れ姿を、うれしく誇らしく見守る保護者に共感して、まだ15年も先の我が子の姿を想像して涙腺が潤んでいました。懐かしい思い出を語り、離れていた間の軌跡を尋ね、ゆつくりと会話を重ねる姿を見ていたら、自分が二十歳の時、ずっと心に残っていた人と再会したのに、胸がいっぱいになって一番遠い席に座って目も合わせられなかったことを思い出して、あの頃の想いを託すような気持ちで、心の中でひそかに「がんばれー！」とエールを送っていました。(野中)

▼広報の仕事に携わり、はや1年。毎年この時期になると1年が経つのが早いなと感じます。地域おこし協力隊と仕事をすることが多く、地域おこし協力隊の頑張りをそばで見ているため、町民の皆さんにもっと知ってもらいたいと思っています。今月号の裏表紙にもありますが、地域おこし協力隊のコラムでは、皆さんに喜んでもらえる活動や芦屋町の情報を発信しています。SNSも行っていますのでフォローお願いします。(篠塚)

